

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：第3次産業活動指数(9月)
発表日：11月22日(火)
～7-9月期の景気の底堅さを示す結果～
(No. J-165)
第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 齋藤俊輔
TEL：03-5221-4547

(単位：%)

		第3次産業活動指数												
		前期比		前年比		電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業	卸・小売業	金融・保険業	不動産業	飲食店・宿泊業	医療・福祉	サービス業
				前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比	前期比
04	1-3月	0.0	2.4	1.8	▲3.0	▲0.5	▲0.1	1.0	▲0.2	▲0.6	1.0	▲0.2		
	4-6月	1.6	2.5	1.6	3.3	0.7	0.5	2.4	1.6	0.5	0.7	3.0		
	7-9月	▲0.2	2.5	0.2	▲3.4	0.5	0.1	▲1.9	0.1	▲0.8	0.9	0.8		
	10-12月	0.6	2.0	▲2.4	3.7	▲0.1	▲0.1	0.6	0.6	▲0.1	0.2	1.5		
05	1-3月	1.4	2.2	4.2	▲2.1	0.2	1.6	1.8	▲0.3	3.0	1.0	2.3		
	4-6月	0.0	1.8	▲0.9	1.3	1.3	0.0	▲1.0	1.1	▲0.7	▲0.5	▲0.1		
	7-9月	0.3	2.3	▲0.8	0.3	▲0.1	▲0.6	3.2	0.6	▲0.8	0.3	0.7		
04	1月	2.0	2.5	2.5	▲4.1	0.8	3.4	3.0	0.2	▲2.5	2.2	2.5		
	2月	▲3.1	2.7	▲1.9	▲0.6	▲3.0	▲3.6	▲3.3	▲2.8	0.2	▲3.6	▲4.0		
	3月	1.6	2.1	1.5	0.2	2.6	▲0.6	4.6	3.1	1.0	4.2	0.6		
	4月	2.0	3.4	▲0.1	2.1	0.2	3.2	1.7	0.4	▲0.2	▲0.6	4.4		
	5月	▲1.0	1.0	1.6	▲1.0	▲0.5	▲2.0	▲1.4	0.2	0.5	0.1	▲0.7		
	6月	0.6	3.0	0.8	5.7	0.6	1.1	▲0.8	0.3	▲0.9	▲0.6	0.1		
	7月	▲0.3	3.4	0.1	▲9.3	1.3	0.9	▲1.7	▲0.2	1.2	0.6	0.4		
	8月	0.2	2.6	▲2.0	4.9	▲1.6	▲1.0	1.1	0.1	▲3.1	1.0	0.2		
	9月	0.0	1.6	1.3	▲0.4	0.2	▲0.5	▲0.1	▲0.1	1.8	▲0.3	1.6		
	10月	0.3	0.5	▲1.4	2.4	0.4	1.2	0.1	▲0.2	▲0.7	▲0.4	▲1.1		
	11月	0.3	3.0	▲1.6	▲1.4	0.3	▲0.7	0.8	1.0	▲2.1	0.9	1.9		
	12月	0.1	2.4	▲0.6	2.4	▲0.8	0.0	▲1.0	0.3	5.7	▲0.4	0.7		
05	1月	2.4	3.1	3.6	▲3.1	0.6	4.6	2.9	▲0.3	0.1	1.9	1.9		
	2月	▲1.2	1.5	2.3	1.1	▲1.1	▲2.7	▲1.0	▲0.3	▲0.8	▲2.0	▲0.7		
	3月	▲0.9	2.0	▲0.2	▲2.6	2.3	▲2.9	▲0.2	▲1.2	1.3	1.5	▲0.7		
	4月	1.7	1.7	▲0.6	1.8	0.5	4.3	▲0.2	1.4	▲0.7	▲0.5	1.2		
	5月	▲1.5	1.8	▲2.8	▲1.3	▲1.4	▲2.2	▲0.6	1.0	▲0.7	▲0.3	▲1.8		
	6月	0.9	1.9	2.7	5.5	1.9	0.8	0.1	▲0.2	▲0.4	▲0.5	2.0		
	7月	▲0.7	1.2	▲5.3	▲4.7	▲0.8	▲0.6	0.3	▲0.5	▲0.6	0.3	▲0.4		
	8月	1.6	3.2	5.7	1.7	0.5	1.7	3.6	1.8	▲0.5	1.1	0.9		
	9月	▲0.7	2.3	0.6	2.4	▲1.1	▲2.6	2.1	▲0.9	1.5	▲1.1	▲0.4		

(出所)経済産業省「第3次産業活動指数」

○ 第3次産業活動指数は前月比▲0.7%と2ヵ月ぶりの低下

9月の第3次産業活動指数は前月比▲0.7%と市場予想(コンセンサス▲0.3%、レンジ▲1.6～+0.9%)を下振れる結果となった。ただ、前月の大幅な上昇(同+1.6%)による反動の範囲であり、懸念は必要ないだろう。内訳をみると、卸・小売業(同▲2.6%)、医療・福祉(同▲1.1%)、サービス業(同▲0.4%)等が低下に寄与する一方、情報通信業(同+2.4%)、金融・保険業(同+2.1%)、飲食店・宿泊業(同+1.5%)等が上昇に寄与した。大きくマイナスに寄与した卸・小売業(寄与度▲0.6%ポイント)は残暑で気温が平年よりも高めに推移したことで、秋冬物衣料品の販売が伸び悩んだことが影響した。一方で前月に引き続き、株式市場の活況を背景に証券業が同+14.4%(同+0.2%ポイント)と押し上げに寄与している。今月、低下した業種は、前月では上昇した業種が多いことから、低下は前月の反動の範囲内であり、趨勢的には緩やかな改善基調に変化はない。先行きも雇用所得環境の改善を背景に、個人消費の底堅い推移が続くと予想されることから、第3次産業活動指数の上昇は持続する見込みだ。

○ 全産業活動指数の低下も反動の範囲内

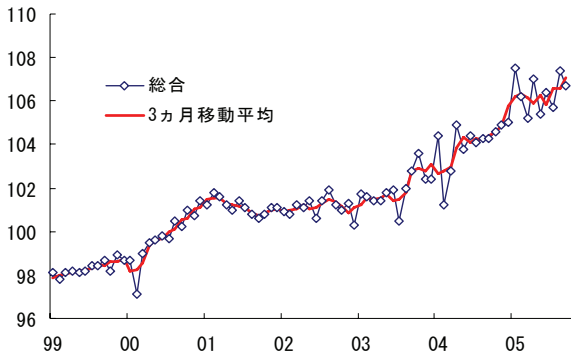
同時に公表された9月の全産業活動指数も前月比▲0.4%(コンセンサス0.0%、レンジ▲1.0%～+1.2%)と市場予想を下回った。内訳をみると、鉱工業生産指数(同+0.1%ポイント)が上昇に寄与した一

方、第3次産業活動指数（同▲0.4%ポイント）が低下に寄与している。こちらも前月の反動減による第3次産業活動指数の押し下げが大きく、特に心配はないだろう。先行きについては、生産予測指数では、10月（前月比+2.4%）、11月（同+1.9%）と増加が見込まれていることから、10月以降の全産業活動指数は鉱工業生産指数による押し上げが期待できよう。

○ 7-9月期の景気の底堅さを確認

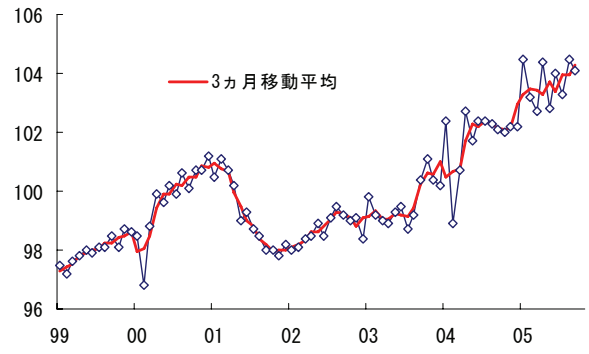
全産業活動指数の7-9月期の前期比は+0.3%と3四半期連続の上昇となった。全産業活動指数は供給側からみたGDPとも言われていることから、7-9月期の実質GDP（前期比+0.4%、前期比年率+1.7%）とほぼ同様の伸びとなり、景気の底堅さを確認できる結果となった。7-9月期でみると、鉱工業生産指数が前期比▲0.2%とマイナスに寄与したものの、第3次産業活動指数が同+0.3%、建設業活動指数も同+1.0%（2四半期連続の上昇）となりプラスに寄与している。底堅い個人消費等を背景とした非製造業の伸びが目立つ内容となった。先行きも第3次産業活動指数の改善傾向や前述の生産の予測指数などを勘案すれば、全産業活動指数の上昇傾向は続く公算が高いだろう。

第3次産業活動指数（季調値）



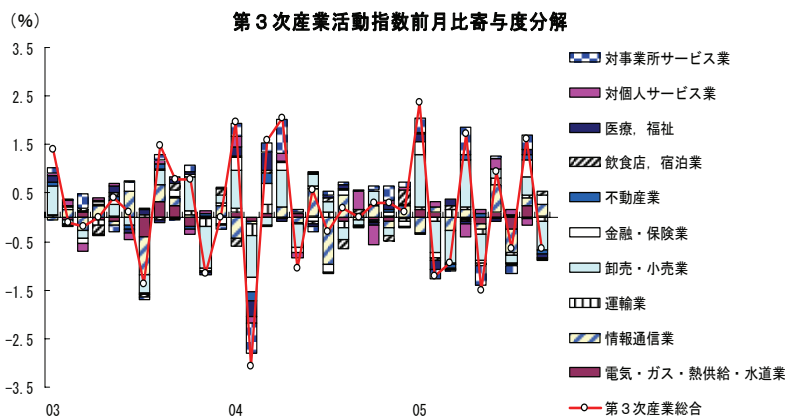
(出所) 経済産業省

全産業活動指数（季調値）



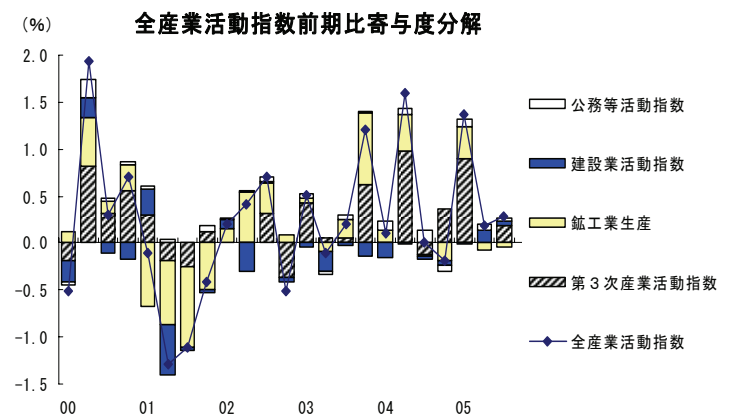
(出所) 経済産業省

第3次産業活動指数前月比寄与度分解



(出所) 経済産業省

全産業活動指数前期比寄与度分解



(出所) 経済産業省